



日能研 たまプラーザ校 室長  
原 武彦 先生

伸びる子どもに  
育てるために

## 夏休みの学習のポイント

ガウディアが会員の保護者さまへお渡ししている『ガウディア新聞』で、中学受験に向けて、数多くの子どもたちを育ててこられた日能研のカリスマ先生が、保護者の皆さまが抱えるお悩みにアドバイスしているこのコーナー。

ウェブでは、誌面の都合で載せきれなかったお話も加えてご紹介します。

### 保護者のお悩み

せっかくの夏休み。

**学力アップ**するにはどんな過ごし方をすればいい？

**学力が伸びてくる子はスケジュールが決まっている。勉強の時間は毎日同じに。**

夏休みのような長期の休みは、生活リズムが乱れがちです。リズムが崩れていると、机に向かう習慣をつけるのも大変。できれば、夏休み中も学校に行く時間に起きて、基本的な生活リズムはなるべく保つように心がけてみてください。

ガウディアに通っているお子さんであれば、教室がない日も宿題教材がありますから、通っていない日も同じ時間帯に宿題教材に取り組んだりするとよいでしょう。それを続けていると、机に向かうことが習慣として身についていきます。

日能研の子どもたちも、学力が伸びてくる子は、みんな毎日のスケジュールがちゃんと決まっているんです。学習サイクルが決まってくると、今日は何をするというのが自分でもわかってくるので、人に言われなくても手をつけていきやすいですし、その日の気分で「今日はやらない」というのも出にくくなります。

その際、勉強する時間だけ決めて、何を勉強するかまでは決めていないという人がいますが、それはちょっともったいないですね。「月曜日は算数、火曜日は国語の漢字」などと、ざっくりで構わないので、内容やせめて教科だけでも決めておくとよいでしょう。この日はこの教科、と決まっていれば、「前はこれをやったから、今日は次のところを…」と学習の流れが自然にできていきますし、計画も立てやすくなります。学習効果を考えるならば、心がけてほしいところです。

また、ガウディアに通っているお子さんであれば、ガウディアで学んだことを使うようにしてみましょう。「今日はどんな漢字を覚えたの？それってこういうふうに使うよね」などと勉強が終わったら聞いてみる。子どもは、覚えたことはどんどん使いたがるものです。語彙力がある子は、ご家庭でたくさん会話をしています。どうぞお子さんに話を振って、どんどん会話を楽しんでください。



日能研 たまプラーザ校 室長  
原 武彦 先生

指導歴 20 年で、合格指導には定評あり。  
中学受験後の卒業生からの信頼も厚く  
校舎を訪れる卒業生は 1,000 名を超える。  
その子どもたちの将来を見守る関わりに  
保護者も絶大な信頼を寄せる。

- 日能研 たまプラーザ校 -

たまプラーザ校は、神奈川県にある  
開校 40 年を超える大規模校。  
細分化された習熟度別クラス編成により、  
子どもたちのレベルに合った授業・学習を行う。  
校舎にはガウディア教室もあり、  
幼児指導から中学受験まで、一貫した取り組みを行っている。

[http://www.nichinoken.co.jp/np5/nnk2/branchdetail/index/kyoshitsu.php?site\\_code=EK](http://www.nichinoken.co.jp/np5/nnk2/branchdetail/index/kyoshitsu.php?site_code=EK)

## 夏こそ、さまざまな体験を。子どもにあったスタイルをいろいろ試す。

「塾の先生なのに？」と思うかもしれませんが、せっかくの夏休みですから、机の上の勉強だけでなく、ぜひ外にも目を向けてほしいですね。パンダの模様を描くとか、モンシロチョウを絵に描くといった問題が中学の入試問題に出たこともあります。野球など女の子はあまり縁がないでしょう？でも、国語の文章に野球の話が出てくることもあります。野球観戦に行ったことがあれば、「ああ、こういう状況か」とイメージが浮かびますが、見たことがなければイメージもできません。ですから、あえて苦手なことだったり、縁がなかったことを体験したりするのもいいと思いますよ。体験したことは、先々いろんなところにつながっていくものです。

子どもって、どんどん変わっていくんです。学力も中学や高校、大学に入ってから伸びる子もいますし、科目だって、小学生のとき算数が苦手な子が、中学では方程式などを覚えて得意教科になったり。だから、おうちの方にはどうか「うちの子はこうだから」と、今見えるお子さんの姿だけで決めつけないでほしいですね。

子どもは一人ひとり、伸びるフックが必ずあります。それはきょうだいでも違うんです。上のお子さんのときは「宿題が終わったらゲームをやっていいよ」で上手くいったかもしれないけれど、下のお子さんは「先に1時間ゲームをやってから宿題を」の方が、集中力が高まって勉強できたりする。夏休みはトライする時間も余裕も普段よりはあると思います。体験だけでなく、やり方もいろいろ試して、どうかお子さんにあったスタイルを見つけるように心がけてみてください。

## できたことや得意を認めて楽しく学べるようにバックアップ！

夏休みは、お子さんが家にいる時間が長い分、親御さんの家事も増え、効率の良さを求めたり、間違いをとがめたりしてしまいがちです。しかし、できたことをきちんと認め、根気よく待つことも必要です。たとえば、「10問中5問しかできなかった」ではなく、「5問できた」ことを評価してほしいですね。低学年以下なら、問題の正解率が悪くても、あるいは時間がかかったとしても、机に向かってプリントを解いたこと自体を認めてあげましょう。

逆に、こうしたケースもあります。塾に通う児童がお母さんに言われてプリントを2枚やって、いつもより早く終わったら、「あと2枚ね」と言われたというのです。その日は早くできたのに、早く終わったならもっとやれと言われてしまう。それでは、子どもは勉強をするのが嫌になってしまいます。いつもより早く終わったのなら、「今日は気分よく勉強できたのかな。いつもと何が違ったんだろう」と考えたり、「今日やったところは得意なのかな」と我が子をより知る機会にもなります。そういったことにも目を向けられるといいですね。

勉強の弱点は学年が上がってくると、自分で気づいて取り組むようになります。ですから、とくに幼児や低学年であれば、無理に苦手分野をやらせるのではなく、本人が取り組みやすいことを優先するのがよいのではないのでしょうか。それが、本人の自信になるだけでなく、やる気アップにもつながります。

子どもは楽しみや喜びがないとなかなか続けられません。本人が得意なことを伸ばして、「問題を解くのが楽しい」「できてうれしい」といった機会を増やすことが大切だと思いますよ。